

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271500995		
法人名	有限会社 泰葉		
事業所名	グループホーム泰葉 A棟		
所在地	長崎県佐世保市江迎町北平6-1		
自己評価作成日	令和 7年 9月 8日	評価結果市町村受理日	令和7年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 7年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

和気相合とした家庭的な雰囲気の中、毎食手作りの食事を美味しく召し上がっていただいている。距離感も大切にしつつ何でも気軽に話せるような関係を築けるよう職員全員、日々努力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念“私たちは入所者の方に住み慣れた地域の中で家庭的な生活ができるような環境とケアを提供いたします”に基づき、利用者の生活歴やこだわりを丁寧に把握し、個別支援へと繋げている。居室にはドリル冊子や電卓などを置き、趣味や習慣を続け、個性豊かな暮らしを大切にできるよう支援している。利用者の得意分野を活かし、一人ひとりが役割を持つ喜びが表情から見られる。職員が手作りする食事は、匂いや調理音を通して利用者の五感に働きかけ、家庭的なぬくもりを生み出している。事業所便りでも温かみを伝え、家族との繋がりを育てている。総合訓練に加えて毎月多様な自主避難訓練を行い、火災や水害などへの対応力を高めている。また、独自の介護日誌に、計画に沿った支援の実践状況を丁寧に記録し、職員間で共有している。理念の実践に真摯に取り組む事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で家庭的な生活を理念に掲げ共有し利用者様の意向に耳を傾けながら家庭的な雰囲気づくりを心掛け安心して過ごしていただけるよう実践している。	理念を大切に、利用者のペースを尊重しながら、本人らしい生活を支援している。管理者は新人研修で理念の意味や目的を説明し、ケア会議でも職員に語ることで共有化に努めている。日々、利用者の思いに寄り添う支援の姿勢から、理念が職員に浸透していることがわかる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的ではないが定期的に会議や地域の祭り、体操、地区老人会、災害訓練等に参加、交流を行っている。	利用者は、地域の祭りや地域包括支援センターが主催する“100歳体操”など、地域の行事や活動に参加している。日々の散歩では地域住民と挨拶を交わし、園児の訪問など、顔馴染みの関係が築いている。婦人防火クラブや地区役員とも関わりを持ち、地域の情報を共有しながら地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様と地域の方々との交流時に質問を受けたり、その方に合った支援の方法を伝え認知症の人の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議時に評価の報告、話し合いを行い、意見を参考にサービス支援を行い向上に活かしている。	運営推進会議は年6回、規程に基づくメンバーで開催している。利用者の状況や活動報告に加え、ヒヤリハット、意見交換等詳細な議事録から運営の透明性が窺える。議事録は家族へ郵送し情報共有に努めている。会議で出た意見をもとに手すりを設置するなど運営や支援に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	長寿社会課、市役所(支所)との連携を行い必要時は質問や指導を仰いでいる。	市の担当課職員が定期的に訪問し、行政から案内のある研修を職員が受講している。運営に関する手続きや不明点について、電話や支所窓口で随時確認している。日頃から事業所の取組を積極的に伝え、行政との協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者および全ての職員は身体拘束において毎月の勉強会を通じて正しく理解できており身体拘束は行っていない。	3ヶ月毎に身体拘束等の適正化に向けた委員会を開催し、毎月のケア会議でも議題として取り上げ、職員への周知を図っている。年2回は勉強会を設けている他、外部研修にも参加するなど理解を深めている。言葉による拘束が疑われる場合は、管理者が随時指導しており、身体拘束のない支援の実践に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は毎月の勉強会、及び外部研修を受け周知徹底している。利用者様、職員に聞き取りを行い注意を払いながら防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、必要と思われる方はおられないが今後の為に成年後見制度についての研修に参加したり、会議の場で理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、改定等の際は、利用者や家族の方に十分な説明を行い、理解・納得を得ている。質問や疑問点があれば、いつでも連絡いただくよう文面、口頭にてお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会議の場で意見、要望を伺っている。事業所内に相談箱を設置したり、来所時や電話等で要望を伺い反映させている。	利用開始時、相談や要望を伝えられる窓口や方法について説明している。事業所だよりや来所時の面談、電話や手紙などを通して家族に日々の様子を伝えながら、思いや要望を把握している。利用者や家族が安心して思いを伝える環境づくりに努めている。家族からの助言や意見を運営や支援に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃、職員より思うように休憩ができないとの意見が出ており、休憩場所の設置を要望として伝えた所、すぐには設置できないが、検討しますとの回答があった。現状ではホール内での休憩が続いている。	職員は、ケア会議に限らず日頃から意見や提案を出し合っている。管理者は、代表者とも情報を共有し運営に反映している。休憩場所の確保など、対応が難しい要望についても否定せず受け止め、真摯に回答している。希望休やシフトの調整、物品の購入などに職員の意見を取り入れ、働きやすい職場づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の努力や勤務状況等を把握しており、やりがいや向上心を持って働くことができるよう職場環境改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの質を上げる為、個人にあった研修を受ける機会を確保・提案しているが外部での研修等の受講を希望する職員は少ない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者・管理者は同業者と交流する機会が多いが、職員はその機会が少ないように感じる。今後、同業者の勉強会等に参加する機会を増やし、ネットワークを作ることが必要である。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様に寄り添い傾聴することで不安要因を取り除き、何でも遠慮なく相談していただけるような関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている事、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の声に耳を傾け、要望や不安に思われていることなどを十分に聞き取り、一緒に考えサービスに活かせるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族様において生活していく上で障害となる事を見極め、安全安心できる生活が継続できるような対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で、本人様の声に耳を傾け主体性を尊重し、できる作業等は職員が見守り又は一緒に行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で生活状況をお伝えしている。状態に変化が見られた時は、その都度状況をお伝えし、今後の生活方針等をご家族様と一緒に話し合っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長年の友人との面会が途切れないよう来所の声かけを行ったり、馴染みの美容室へ外出できるよう職員の付き添い支援、又はご家族への連絡・調整を行っている	職員は、利用者の生活歴を把握し、基本情報に記し職員間で共有している。家族や友人との面会コーナーを設けて交流を支援しており、家族の協力により本人が希望する場所への外出や法事に出向いている。慣れ親しんだ美容院への外出、思い出のある地域へのドライブなど、場所や人との関わりが続くよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴の方や言葉が出にくい方に対しては職員が筆談を活用したり代弁するなどコミュニケーション支援を行っている。又、利用者間の相性などを考慮し席替えを行っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にご家族様へその後の状況を伺ったり、困っている事や相談事がある時は、いつでも遠慮なくご連絡していただくようお願いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に要望や意向を伺ったり会話の中で思いを引き出している。又、困難な方に対しては表情表現などで意向を汲み取り、問題点や本人様に必要と思われる支援を検討している	職員は、利用者と過ごす時間を大切に、一人ひとりの思いの把握に努めている。気づいたことは日誌に記録し、職員間で共有している。会話が困難であっても表情や動作、単語を繋げながら思いを汲み取っている。利用者が自分のペースで日中を過ごせるよう配慮し、得意なことや興味を生かした役割を持てるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族様から生活歴や暮らし方を伺ったり入所前に利用されていたサービス事業所との連絡、連携を図り情報収集を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は入所者の方の過ごし方や精神状態、身体状態、できること、できない事を良く把握しており心身状態の気づきや変化を早期に把握できている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様へ生活に対する意向を伺い、課題とケアのあり方について本人、家族、職員、医療職の意見を反映し介護計画を作成している	利用開始時、暫定期間の介護計画を作成している。職員は、カンファレンスやモニタリング・評価を行い、更新時には本人や家族の意向を確認し明記している。同意を得て支援に取り組んでいる。介護日誌には長期・短期目標と実践状況を記録し、計画に基づいた支援の実践状況がわかりやすく伝わるよう、記録を工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の状況や本人様の言葉、身体機能の状態、行動の変化等を個人記録に記入し職員間で情報を共有している。課題が生じた場合は実践や介護計画の見直しを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の状況により対応出来ない場合は他科受診の付き添い支援や買い物代行等を行っている。利用者様の体調や要望に合わせた支援を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の意向があればスーパーやコンビニ、洋品店、花屋などに付き添い店員さんとの会話や購入の楽しみを持ちながら意欲的な生活を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族様の希望を伺い納得を得た上で、かかりつけ医を決め連絡・連携を密に行い、いつでも受診できるよう支援している。	利用者はかかりつけ医の診療を継続しており、他科受診も含め職員が通院に同行し、結果を家族へ伝えている。定期的な協力医による往診も受けている。日頃から協力医や訪問看護師と相談・連携を図りながら、緊急時を含む医療支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所との連携で看護師に日常の情報や気づきの報告、質問や相談なども行い、必要と思われる時は受診している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病歴や生活状況、問題点、その他、詳しく情報を伝えている。日頃より病院関係者とは電話や対面を通じて情報交換を行い関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約の中に看取りを行っていない文面を入れ契約時に説明を行い終末期の対応については確認し同意を得ている。重度化された場合は再度、ご家族様と話し合い希望される生活の場への支援を行っている	事業所は看取りを行わない方針であり、重度化や終末期の対応については利用開始時に家族へ説明している。利用者様の体調に変調が見られたら、医師との話し合いのもと、医療に対する希望の再聴取を実施しており、現在、緊急時に備えた意向確認書の導入を検討している。	重度化や終末期の方針および緊急時の対応内容を明確にし、本人・家族と共有する仕組みづくりが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の方法は日頃のケア会議で勉強しており、ある程度は対応できている。定期的な訓練は行っていない。対応で解らない時は訪問看護とのオンコール体制を利用し指示を仰ぐようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	訓練時は地域婦人防火クラブの参加協力を得ている。又、昼、夜(夜間想定)を問わず自主的に避難訓練を実施している。職員は毎回、的確な誘導が出来ている。火災を未然に防ぐ為、毎日自主点検を行っている。	年2回、消防署立会いのもと日中と夜間を想定した避難訓練を実施し、年1回は水害時の避難訓練を行っている。地区の婦人防火クラブも参加し、地域との協力体制を築いている。毎月の自主避難訓練では多様な災害を想定し対応力を高めている。非常持ち出し品や備蓄品の整備にも取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失禁時はそっと声をかけ誘導したり、常に尊厳を意識し自尊心を傷つけないよう言葉のかけ方に注意し対応している。	職員は、居室に入る際は必ずドアをノックし、名前にさん付けで呼ぶなど、人格を尊重した対応を行っている。記録や申し送りの場面では、職員は利用者のプライバシー保護に配慮している。個人情報事務所で適切に保管し、職員には守秘義務を周知徹底しており、写真等の取り扱いについても同意書をもとに対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の希望や思いを引き出しやすいような簡潔でわかりやすい言葉使いや筆談等で説明を行い、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や要望を優先し個々のペースに合わせた支援を行っている。体調によっては起床時間や食事時間を延期したりして希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は手が届く所にヘアブラシを置き自ら鏡を見て髪を整えていただいたり、食べこぼし等で汚れた衣類は早急に更衣介助し気持ちよく生活していただけるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手な食べ物がある方には一部メニューを変更し提供している。その方の能力に合わせて野菜の皮むき、お茶の準備、テーブル拭き又、職員と一緒にお盆拭き等を行っている。	旬の食材を用い、利用者の嗜好に合わせた食事を職員が調理している。刻み方や盛り付けにも配慮し、食べやすく見た目にも食欲を高めるよう工夫している。利用者が野菜の皮むきや準備の手伝うこともある。パンの日や刺身を取り入れたり、季節行事や誕生会の特別メニュー等、食を楽しむ支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を毎日、チェックしている。食が進まない方には代替品を活用したり嚥下機能の低下が見られる方にはトロミや刻み、ミキサー食で提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方や訴えが出来ない方には口腔内のブラッシングや残渣物の確認を行っているが、重度認知症で理解が困難な方は歯ブラシを口に入れてだけで強い拒否が見られ、思うようなケアができない事もあり今後の課題でもある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた時間帯でのトイレ誘導を行いズボンの上げ下げなど出来る動作は本人に行っていた。又、夜間オムツを使用している方においても日中は、出来るだけトイレでの排泄を促し支援している。	職員は、利用者のペースを見守りながら過度な支援を避け、トイレでの座位による排泄ができるよう支援している。ケース会議では、布パンツの使用やパッドのサイズなど、個別の支援内容を検討し対応を行っている。職員同士が連携し、声かけを工夫することで、不穏にならず清潔を保っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を確保し運動を行う。繊維質の多い食材を利用したり乳製品を提供している。食事や運動で改善が困難な方には主治医の指示で便秘薬を服用しコントロールできている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	前回の外部評価以降、職員と話し合い、週3回の入浴を決め行っていたが、重度の方、介護に時間を要する方が多くなり週3回の入浴対応が厳しくなった為、現在は週2回行っている。本人様の希望があれば、いつでも入浴できる体制を整えている。	現在、利用者の高齢化に伴い、体力面に配慮して入浴日を週2回としている。入浴日以外は、清拭と着替えを行っている。入浴を拒む場合は無理に促さず、声掛けや時間を変えて対応している。入浴時にはゆっくりと時間を取り、入浴剤や好みの湯温に整えることで、利用者が会話を楽しんだり、寛げるよう入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調に気を配り体力に応じた運動支援や状態に応じて休息を促している。精神面にも配慮し表情を観察しながら言葉かけや傾聴に努め不安軽減に努め安心して十分な睡眠を取っていただけよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法や用量は理解している。与薬時は飲み込みの確認を行い状態の変化を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を鑑み出来るだけ継続して行えるよう支援している。本人の能力を引き出し支援することで達成され新たな発見があり、喜ばれる場面も見られる。その方に合った役割を持っていただき活動を継続する事で生活の質の向上につながっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的ではないが、花見の季節はドライブを兼ね見学に出かけたり、本人の希望を叶える為、ご家族様と連携を図り一時帰宅の支援を行っている。又、地域老人クラブ活動への参加や買い物支援、施設周辺の散歩を行っている。	敷地内や周辺を散歩したり、庭の花を眺めたり、草むしり等、外気に触れながら外出気分を味わえるよう支援している。また、買い物やドライブの他、地域活動に参加している。花見など季節を感じる外出の機会も設け、家族の協力の下、利用者の希望に沿った外出が可能である。職員は、利用者が外出を楽しむことができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当事業所では金銭の預りは行っていない。ご本人様より購入の希望があった場合はご家族様に連絡し対応していただく、もしくは購入代行の依頼があれば事業所で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様からの要望を受け職員がご家族様へ電話をかけ取り次いだり送り物が届いた際は職員が電話で取り次ぎ会話支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の温度調節や光による刺激を取り除く配慮を行っている。ホール、廊下、居室には季節に応じた作品を飾り眺めて楽しまれたり、余暇の時間は心地良い音楽を流すなどの工夫をしている。	リビングでは、利用者がテーブルやソファで寛ぐとともに、日課の体操の号令を担当するなど役割を持ち、生き生きと過ごしている。キッチンからは食事作りの音や匂いが感じられ、家庭的な雰囲気がある。職員は明るく声を掛け、利用者が庭で草むしりを行えるよう支援するなど居心地のよい共用空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にソファや長椅子を設置しており気の合った利用者様同士で会話を楽しんでいる。3カ所にある設置場所を自由に選び独りになりたい時は利用者様が誰も座っていない所でくつろがれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真を飾ったり、日頃より使用されていた寝具類を持参され落ち着けるような工夫をしている。花の絵を飾ったりぬいぐるみを置き、居室が寂しい空間にならないよう工夫をしている。	なじみの本や趣味のドリル冊子、電卓などを居室に置いている他、利用者が畳に座って衣類を整理するなどこれまでの暮らしを継続する様子が窺える。家族写真や遺影、ぬり絵を飾り、居室に親しみや安心感を持てるよう工夫している。職員は清掃や空調管理に配慮し、清潔な環境の保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口、トイレ、風呂場の入口に迷われないようドアに解りやすい文字で表記している。異食行為が見られる方には常に危険な物を置かないようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271500995		
法人名	有限会社泰葉		
事業所名	グループホーム泰葉 B棟		
所在地	長崎県佐世保市江迎町北平6-1		
自己評価作成日	令和7年9月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和7年10月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

和気あいあいとした家庭的な雰囲気の中、毎食手作りの食事を美味しく召し上がって頂いています。距離感も大切にしつつ、なんでも気軽に話せるような関係を築けるよう職員全員が日々努力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様が穏やかに笑顔で過ごしていただけるよう皆で理念を共有し、実践に繋がるよう職員がチームとしてケアにあたっている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様の体調等を考慮しながら、地元の商店に買い物に出かけたり、地区の公民館で開催されている100歳体操に参加して日常的に交流出来るように努めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状、地域貢献はできていない。他の施設の事例等を参考にし、地域の人々に向け何らかの取り組みをしたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々、以前入居されていたご家族の方などに参加頂き、有意義な話し合いが行われている。特にヒヤリハットに関しては関心が高く職員以外の方の目線でのご意見は貴重であり、サービス向上に活かすことが出来ている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告、施設便りの送付など通常時の施設の状況を把握して頂けるようにしている。また、入居者さま・ご家族様とのかかわり方などで対応が難しい時などは相談をし意見や指示を頂いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月開催しているケア会議の中で身体拘束について学んでおり、理解が深まっていると考える。学んだことを活かすことが出来るよう職員一人一人が常に意識してケアに取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、ケア会議の議題の中に組み込み毎月学んでいる。虐待をしないことの徹底に努め、見逃されることのないよう職員で話し合い互いに注意を払い防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見制度を利用している方が一名入所。しかし、職員の理解は浅いと思われる。資料等を使い学んでいるが、研修の機会を増やす必要があると考える		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約及び改定等に関する説明は理解いただいているか確認しながら行っているが、不安や疑問点等あればいつでもお尋ねいただくようお願いしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様については、日ごろの会話の中で要望や思いを引き出す言葉かけに努めている。ご家族については来所時にお話を伺い、来所が難しい場合は入電するなどして意見・要望等あれば職員で共有しケアに反映できるよう努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見・提案を聞く体制は整っているが、聞く機会を設けるには至っていない。今後、体制だけでなく話す機会と話し易い状況を整えることが必要である		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の努力や勤務状況等把握しており、やりがいや向上心を持って働くことのできるよう職場環境改善に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの質を上げる為、個人にあった研修を受ける機会を確保・提案しているが、外部での研修等の受講を希望する職員は少ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者・管理者は同業者と交流する機会が多いが、職員はその機会が少ないように感じる。今後、同業者の勉強会等に参加する機会を増やし、ネットワークをつくる必要がある		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できる限り本人から話を聞き要望等伺い、安心してサービスを受けて頂く為少しでも不安を解消できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困りごとや不安なことをお話頂き、ご家族のお気持ちに寄り添うことでより良い信頼関係を築いていけるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談時や見学の際に本人・家族等から困りごとや要望を伺い、現在の生活の様子などをお話いただくことで必要な支援、サービスを提供できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ作業を一緒にしたり、その方ができる家事をして頂くことで暮らしを共にしているという認識を持ち支えあう関係を築けるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関係性が希薄なものにならないよう、面会が難しい遠方の家族には電話で互いの声を聞いて頂いたり、職員が近況を報告するなどの支援をしている。現在INE登録して頂いている家族の方が二名ほどいらっしゃるので、その日のご様子を写真や動画で見て頂くという取り組みも始めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症防止の観点から家族以外の方に気軽に面会に来て頂けないのが現状である。しかし、感染症予防に留意しながら面会や外出の範囲を広げていくことが非常に重要であると考えており、今後の課題のひとつである		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性は把握できている。そのうえで場面に応じた言葉かけをするなどして、良好な関係性を保てるよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて経過を尋ねたり、サポートできる内容であれば相談をうけたり、支援することに努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を把握するため、多く話し傾聴することに努めている。それが難しい場合は、本人本位のケアを提供することができるよう職員間で意見を交換し検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	暮らし方、生活歴等職員間で情報を共有しサービスに活かせるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの心身状態、好み、有する能力など現状を把握し、ケアに反映することができる		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	問題点やケアの内容について、都度職員間で意見を交換し、必要時は家族・関係者にも相談することで現状に即した介護計画を作成することができる		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に個別に記録し、申し送りノートも活用している。それによって職員間での情報共有ができており、実践や介護計画見直しに役立てている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要時は支援の内容を見直し、その方にとってより良い支援を検討しサービスに取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの公民館での体操に参加している。季節ごとに近隣の幼稚園児を招き遊戯を見たり七夕飾りなどを貰ったりして利用者の方は大変喜んでいる。今後も、他の地域資源の把握し活用していくことが重要である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携内科医院の医師に月一度往診をお願いしている。しかし、本人及び家族の要望があり受診可能な場合は、定期的に希望の病院で適切な医療を受けられるよう支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は看護職と協働できており、利用者が適切な受診・看護を受けられるよう日々努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、病院関係者と密に情報交換をし必要に応じて相談するなどして、早期退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における医療について、本人・ご家族等には事業所でできることを説明しご理解いただいております。早い段階で十分な話し合いを行い方針を共有し支援に取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や日々のケアの中で身に付いていると思われるが、急変や事故発生時に迅速に対応する為にはより実践的な訓練が必要であると考え		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	災害対策については、月に一度訓練を行っている。地域の婦人防火クラブ等の協力のもと、実践的な訓練も実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の意見を尊重し尊厳を守りプライバシーを確保できるよう努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような事柄の時は、本人が希望や思いを表すことができるように働きかけたり言葉かけをするよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの利用者の生活リズムに合わせ、希望に添えるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や整容等身だしなみは自身で出来るよう働きかけている。希望があれば、美容室へお連れしたり、マニキュアをして頂いたりすることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間を楽しみにして頂けるよう、手作りにこだわり提供している。簡単な下ごしらえはお手伝いして頂き、片付けは職員と利用者様でおしゃべりしながら洗い物をしたり、お膳を拭いたりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取・水分摂取量については、一人ひとりの状態を把握し支援している。食事形態を工夫したり好みの飲料を提供するなどして、一日を通じて適切に確保できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態を把握しており、それに応じた口腔ケアを行っている。必要に応じて、舌用のブラシやスポンジを使用したりして工区内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、状態や時間の把握をしている。必要に応じて声かけ誘導するなどして、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防と対応については、飲料の工夫、効果的な運動など個々に応じた対応をし、必要に応じて医師の診断を仰ぐなどの支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週三回の提供を試みたが、それに伴い他の支援に影響が及んだ為、現在は週二回行っている。しかし、入浴をできるだけ楽しんでいただけるよう、入浴剤を使用したり、湯船に浸かりたい・シャワーだけでいいなど希望を伺い可能な限り支援するよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外気浴や日中の活動を通じて、安眠に繋がるよう取り組んでいる。個々に応じて、居室でお好きな時に休んでいただいたり、リビングのソファでゆっくりして頂いたり、本人の希望と時々状況に応じた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がすぐに確認できるよう処方箋を管理しており、一人ひとりが使用している薬について理解できるようにしている。体調の変化の確認にも努め、必要時は医師に指示を仰ぐなどしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で一人ひとりの力を活かせるよう努めている。家事を手伝って頂いたり、レクリエーションではその方の得意なことを提供している。また、好みの嗜好品がある方には、それを楽しんで頂くなど、様々な取り組みをし喜びと張り合いのある生活ができるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺での散歩・買い物、花見を兼ねたドライブをしている。本人の希望で美容室にお連れすることもある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止の為、個人での金銭管理はしていない。嗜好品の購入希望など必要時は、事業所で立て替えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族に電話し会話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度は常に意識し確認している。四季を感じて頂けるよう季節に応じた壁飾りを作成している。リビングでは、リラックス効果のある音楽を、時には懐メロや童謡を流したりして昔を懐かしんだり、ロズさんたりして楽しんで頂き居心地のよい空間を作ることができるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	トラブルなく居心地よく過ごして頂けるよう、普段の生活の様子から利用者同志の関係性や状態を考慮してテーブルの席の配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、好みのポスターやカレンダー、家族写真や家族等からの差し入れの物などを飾ったりしている利用者もいて、本人が居心地よく過ごせるよう工夫配慮をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所が分かり易いように、張り紙などで工夫している。また、歩行の妨げにならないよう同線の安全を確保し、安全で自立した生活が送れるよう支援している		